

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	義肢
大 鍋 寿 一、東 江 由起夫 大 塚 博、羽 村 重 村		開講時期	前期	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【概要・一般目標：G10】 利用者のQOLを上げるために以下の事柄を学ぶ： - 移動福祉機器の対象者・種類・機能・構造・工学的基礎・技術変遷・今後の動向 - 車いすの適合性・安全性 - 障害の種類と車いす - 昇降装置、介護リフト また、専門用語について英語を学ぶ。					
【学習目標・行動目標：SB0】 1. 移動福祉機器の種類について説明できる。 2. 移動福祉機器の機能・構造について説明できる。 3. 利用者に適した移動福祉機器を選択できる。 4. 移動福祉機器（車いす）の工学的基礎・構造が説明できる。 5. 車いすの分解組立ができる。 6. 専門用語について英語で表現できる。					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	福祉用具概論			1, 6	講義
2	移動福祉機器の歴史・対象者			1, 6	講義と質疑応答、演習
3	車いすの構造			2, 6	講義と質疑応答、演習
4	移動福祉機器の工学的基礎			4, 6	講義と質疑応答、演習
5	移動福祉機器（車いす）の測定			4, 6	講義と質疑応答、演習（大鍋・羽豆）
6	構造とメンテナンス			4, 6	講義（大鍋・東江・大塚）準備（羽豆）
7	構造とメンテナンス			4, 6	実習（大鍋・東江・大塚）準備（羽豆）
8	構造とメンテナンス			4, 6	実習（大鍋・東江・大塚）準備（羽豆）
9	駆動ユニットの適合			3, 6	講義と質疑応答、演習
10	対象者の評価方法と移動福祉機器の選択（杖、歩行器）			3, 6	講義と質疑応答、演習（PT, 大鍋）
11	対象者の評価方法と移動福祉機器の選択（車いす）			3, 6	講義と質疑応答、演習（PT, 大鍋）
12	対象者の評価方法と移動福祉機器の選択（リフト、昇降機）			3, 6	講義と質疑応答、演習（PT, 大鍋）
13	体験・演習			5, 6	講義と質疑応答、演習
14	講義・演習復習			5, 6	講義と質疑応答、演習
15	まとめ 注：6, 7, 8「車いすの分解・組立」3限－5限の連続時間とする。				
【使用図書】		<書名>		<著者名>	<発行所> <発行年・価格他>
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書		車いすのヒューマンデザイン Introduction to Rehabilitation Engineering and Assistive Technology 福祉技術入門（1年次・義肢 装具自立支 援概論で使用）	田中 理、大鍋寿一 R. A. Cooper, H. Ohnabe, D. A. Hobson 後藤芳一、足立芳寛	医学書院 Taylor and Francis CRC Press Ohmsha	2000・4,500円 2006・\$69, 95 1998・4,515円
その他の資料					
【評価方法】 臨時試験&レポート：40% 達成度確認試験：40%、学習態度：20%		【履修上の留意点】 課題発見能力と問題解決能力を養成するので、積極的に質疑応答に参加すること 実習においては注意事項を良く聞き安全に気をつけること			